

バージョン
2.0.72



NaViSet Administrator 2

クイックスタートガイド 日本語

NaViSet Administrator 2

クイックスタートガイド

日本語

1	NAVISET ADMINISTRATOR 2 について	3
1.1	システム要件	3
1.1.1	対応ディスプレイデバイス	4
1.2	ユーザーインターフェースの概要	5
1.2.1	メイン画面	5
1.2.2	メインメニューおよびツールバー	6
1.2.3	デバイスツリー	8
1.2.4	ドックウィンドウエリア	9
1.3	はじめに	9
2	デバイスの準備	10
2.1	SHARP または NEC デスクトップディスプレイ (WINDOWS 版のみ)	10
2.2	SHARP または NEC パブリックディスプレイ	11
2.3	SHARP または NEC プロジェクター	12
2.4	PJLINK デバイス	13
3	ネットワークのマッピング	14
3.1	グループを作成する	14
3.2	1 つのデバイスを追加する	15
3.3	複数のデバイスを追加する	17
3.4	認証情報ライブラリ	18
4	デバイスのクエリと制御	19
4.1	デバイスのクエリを実行する	19
4.2	デバイスを制御する	20
5	タスクの作成と実行	22
5.1	タスクライブラリ	22
5.2	タスクマネージャ	23
5.3	タスクを作成する	24
5.3.1	コマンドタスク	25
5.3.2	条件付きタスク	26
5.3.3	情報取得タスク	27
5.3.4	E メール通知	28
5.3.5	タスクのスケジュール	29
5.4	タスクを実行する	29
5.5	タスク履歴	30
6	レポートの作成と実行	31
6.1	レポートライブラリ	31
6.2	レポートマネージャ	32
6.3	レポートを作成する	33
6.4	レポートを実行する	34
6.5	レポート履歴	34

1 NaViSet Administrator 2について

NaViSet Administratorは、SharpまたはNECディスプレイモニターとプロジェクターに対して、ネットワークベースの制御と資産管理を行うシステムです。NaViSet Administratorは次の機能を備えています。

- ご使用のSharpまたはNEC製デバイスの運用状態やコントロール設定を自動的に監視します。
- 過熱、冷却ファンの不具合、診断エラーなどの異常発生時に自動Eメール通知を送信します。
- オンスクリーンディスプレイ(OSD)およびリモコンと同様のインタフェースを用いてご使用のSharpまたはNECデバイスにアクセスし、さまざまなコントロール設定を調整します。
- ご使用のネットワークに接続されているWindowsベースのコンピュータと、ご使用のSharpまたはNECディスプレイに設置されているシングルボードコンピュータの両方の運用状態を監視します。(Windows版のみ)
- デバイスの資産、運用状態、コントロール設定について詳細なレポートを作成し、一般的なスプレッドシート形式にエクスポートします。

本書について

本書は、NaViSet Administratorの基本的な操作方法を紹介するガイドとしてお使いいただくことを目的としています。本書の全体を通して表示される下記のような参照の記述は、NaViSet Administratorユーザーズガイドの関連トピックを紹介するもので、このトピックで詳細情報を確認することができます。



ユーザーズガイドの第1章「NaViSet Administratorの概要」を参照してください。

1.1 システム要件

	Windows	macOS
OS	次のWindowsの32ビットまたは64ビットバージョン： • 10 / 11 次のWindows Serverバージョン： • 2012 / 2016 / 2019 / 2022	macOSバージョン10.13以降： • Apple シリコン搭載の Mac • Intel ベースの Mac
LAN	標準TCP/IP LANインタフェース。LANに直接接続されているほとんどのディスプレイには、名前解決(ホスト名)サポートが提供されていない限り、静的IPアドレスが必要です。	
システムリソース	インストール用：300MB以上の使用可能なハードディスク領域。 データベースストレージ用：100デバイスにつき約100MBのハードディスク領域。 4GB以上のRAM(8GB推奨)。	

ソフトウェア	ユーザーズガイドの表示にはAdobe Reader X以上を推奨。 出カスプレッドシートの表示用のMicrosoft Excel(オプション)。 コンピュータの温度とファンの状態を監視するためのOpen Hardware Monitor(オプション)。	出カスプレッドシートの表示用のMicrosoft ExcelまたはApple Numbers(オプション)。
--------	--	--

1.1.1 対応ディスプレイデバイス

NaViSet Administratorは、以下のディスプレイモデルをサポートしています。

- NECのディスプレイモデル。
 - NECデスクトップディスプレイ(ITおよびカラーマネジメントディスプレイ)。
 - NECパブリックディスプレイ シリーズ。
但し下記は対象外。
Eシリーズ: LAN接続内蔵モデル以外
Xシリーズ: X461UN、X461HB、X461UN、X461UNV、X462UN、X431BT、X461HB、X462HB
Pシリーズ: P401、P461、P521、P551、P701
 - LANまたはRS232接続を備えたNECプロジェクターモデル。
- LAN 接続内蔵のPJLink 対応デバイス
- Sharpのディスプレイモデル。
 - Sharpデスクトップディスプレイ (2024年モデル以降)。
 - Sharpパブリックディスプレイ シリーズ。

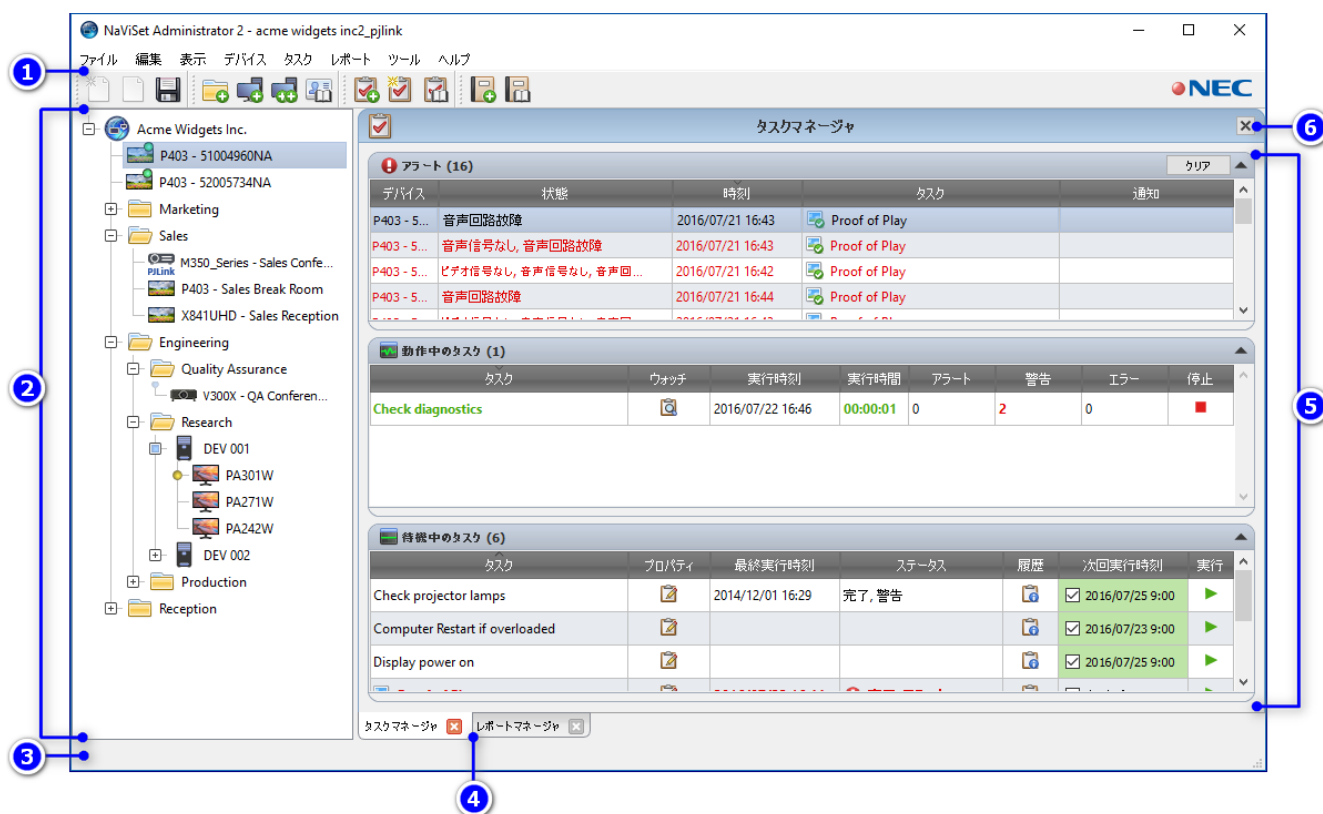
PN-E329	PN-HW322	PN-L652B	PN-M322	PN-P436	LD-A1381F
PN-E439	PN-HW432	PN-L752B	PN-M432	PN-P506	LD-A1651F
PN-E509	PN-HW502	PN-L862B	PN-M502	PN-P556	
PN-E559	PN-HW552	PN-LA652	PN-M552	PN-P656	
PN-E659	PN-HW652	PN-LA752	PN-M652		
PN-E759	PN-HW752	PN-LA862	PN-ME432	PN-UN553S	
PN-E869	PN-HW862	PN-LC652	PN-ME502	PN-UN553V	
		PN-LC752	PN-ME552		
		PN-LC862	PN-ME652		
		PN-LM431	PN-ME752		
		PN-LM551	PN-ME862		
			PN-ME982		
 - Sharpプロジェクター(2024年モデル以降)。

注意:

- NEC パブリックディスプレイ E シリーズのうち、LAN 接続が内蔵されていないモデルはサポートしていません。
- 個々のモデルの最新リストについては、[NaViSet Administrator のウェブページ](#)を参照してください。
- サポートしている特性と機能はモデルによって異なります。

1.2 ユーザーインターフェースの概要

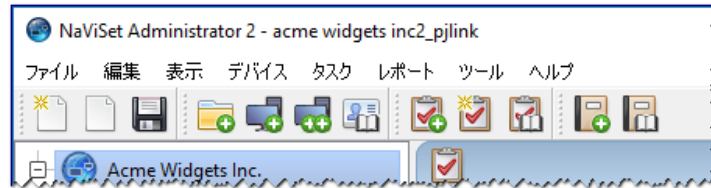
1.2.1 メイン画面



1	メインメニューおよびツールバー
2	デバイスツリー
3	ステータスバー
4	ドックウィンドウタブ
5	ドックウィンドウエリア
6	ドックウィンドウタイトルバー

1.2.2 メインメニューおよびツールバー

メインメニューは8個のサブメニューで構成されています。メインメニュー下部のツールバーには、多くの機能へのアクセスに便利なショートカットが用意されています。



ファイルメニュー

-  **新規** - 新しいデータベースファイルを作成します。
-  **開く...** - 既存のデータベースファイルを開きます。
-  **保存** - 現在のデータベースファイルを保存します。
-  **名前を付けて保存...** - 現在のデータベースを別のファイル名で保存します。

編集メニュー

-  **コピー** - 現在選択しているテーブルからデータを Windows のクリップボードにコピーします。
-  **ペースト** - 現在使用できません。
-  **パワーオン** - 選択しているディスプレイか、または選択しているグループ内のすべてのディスプレイに、電源をオンにするコマンドを送信します。
-  **パワーオフ** - 選択しているディスプレイか、または選択しているグループ内のすべてのディスプレイに、電源をオフにするコマンドを送信します。
-  **削除** - デバイスツリー上で現在選択しているグループまたはデバイスを削除します。
-  **名前を変更** - デバイスツリー上で現在選択しているグループまたはデバイスの名前を変更します。
-  **自動で名前を変更** - 現在選択しているデバイスおよび選択しているグループ内のデバイスの名前を、デフォルトのデバイス名に変更します。
-  **グループを昇順に並べ替える** - デバイスツリー上で現在選択しているグループ内のデバイスとグループを昇順に並べ替えます。サブグループは並べ替えません。
-  **グループを降順に並べ替える** - デバイスツリー上で現在選択しているグループ内のデバイスとグループを降順に並べ替えます。サブグループは並べ替えません。
-  **基本情報更新** - 現在選択されているデバイスツリーアイテムに基本情報更新を実行します。
-  **すべて更新** - デバイスツリーで現在選択されているデバイスにすべて更新を実行します。
-  **すべての更新をキャンセル** - 現在デバイスで実行中のすべての基本情報更新またはすべて更新を取り消します。

 **プロパティ** - デバイスツリー上で現在選択しているデバイスのデバイスのプロパティウィンドウを開きます。

表示メニュー

ステータスバー - メイン画面下部のステータスバーを表示または非表示にします。

ツールバー - ツールバーボタンを表示または非表示にします。

タスクマネージャ - タスクマネージャのドックウィンドウを表示または非表示にします。

レポートマネージャ - レポートマネージャのドックウィンドウを表示または非表示にします。

Proof of Play のイベントログ - Proof of Play のイベントログのドックウィンドウを表示または非表示にします。

デバイスメニュー

 **1 つのデバイスを追加...** - データベースに新しいデバイスを追加します。15 ページの「1 つのデバイスを追加する」を参照してください。

 **複数のデバイスを追加...** - データベースに複数のデバイスを追加します。17 ページの「複数のデバイスを追加する」を参照してください。

 **グループを追加...** - デバイスツリーに新しいグループを追加します。14 ページの「グループを作成する」を参照してください。

 **接続をテスト** - 現在選択しているデバイスにネットワーク上でアクセス可能なことを確認するために、そのデバイスとの接続テストを行います。

 **認証情報ライブラリ...** - 認証情報ライブラリを開きます。18 ページの「認証情報ライブラリ」を参照してください。

タスクメニュー

 **新しいタスク...** - 新しいタスクを作成します。22 ページの「タスクの作成と実行」を参照してください。

 **タスクビルダーウィザード...** - ウィザードインターフェースを使って新しいタスクを作成します。

 **タスクライブラリ...** - タスクライブラリを開きます。

 **Proof of Play...** - Proof of Play のタスクのプロパティダイアログを開きます。

 **アラートを表示／非表示** - アラートリストを表示または非表示にします。

 **動作中のタスクを表示／非表示** - 動作中のタスクリストを表示または非表示にします。

 **待機中のタスクを表示／非表示** - 待機中のタスクリストを表示または非表示にします。

レポートメニュー

 **新しいレポート...** - 新しいレポートを作成します。31 ページの「レポートの作成と実行」を参照してください。

 **レポートライブラリ...** - レポートライブラリを開きます。

 **動作中のレポートを表示／非表示** - 動作中のレポートリストを表示または非表示にします。

 待機中のレポートを表示／非表示 - 待機中のレポートリストを表示または非表示にします。

ツールメニュー

 設定 - アプリケーションの設定ウィンドウを開きます。

ヘルプメニュー

 クイックスタートガイド - 本書をデフォルトの PDF ビューアで開きます。

 **User's Guide** - NaViSet Administrator のユーザーズガイドをデフォルトの PDF ビューアで開きます。

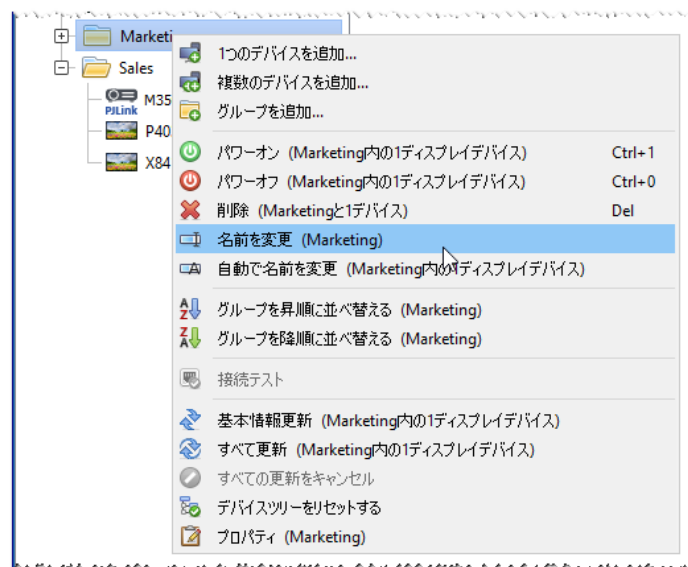
 更新を確認 - ソフトウェア更新システムを使って、最新バージョンがあるかどうかを確認します。インターネットに接続する必要があります。

NaViSet Administrator 2 について... - ソフトウェアおよびデータベースのバージョン情報を表示します。

1.2.3 デバイスツリー

デバイスツリーでは、現在データベースにあるすべてのディスプレイおよびコンピュータを表示します。名前の付いたフォルダ、つまりグループを作って、デバイスを場所や部門で分けるなどの論理的方法で体系化します。

デバイスツリーは、一般的な操作を素早く実行できるコンテキストメニューを備えています。コンテキストメニューを開くには、デバイスを右クリックします。そのデバイスに関して今アプリケーションで実行できるコンテキストメニューのアイテムが表示されます。



デバイスツリーのコンテキストメニュー

1.2.4 ドックウィンドウエリア

ドックウィンドウエリアには任意の数のドックウィンドウを入れることができます。ウィンドウは重ねて表示されますが、タブが付いているため識別して選択することができます。ドックウィンドウは、メイン画面の外に移動させてデスクトップ上の別の場所に配置することもできます。ドックウィンドウを移動させるには、タイトルバーをクリックしてドラッグします。NaViSetAdministratorは、デフォルトでタスクマネージャとレポートマネージャの2個のドックウィンドウを開きます。



ユーザーズガイドの第2章「ユーザーインターフェースの概要」を参照してください。

1.3 はじめに

以降の章は、NaViSet Administratorの実装に関する主要手順別に構成されています。

1. NaViSet Administratorを使用するWindowsコンピュータおよびSharpまたはNECディスプレイデバイスを準備します。**第2章: デバイスの準備**を参照してください。
2. Windowsコンピュータ、SharpまたはNECディスプレイ、SharpまたはNECプロジェクター、およびPJLinkデバイスをデバイスツリーに追加します。**第3章: ネットワークのマッピング**を参照してください。
3. 詳細なデバイス情報を取得して、ご使用のデバイスをインタラクティブに制御します。**第4章: デバイスのクエリと制御**を参照してください。
4. ご使用のデバイスの状態を制御、クエリ、監視するタスクを作成します。**第5章: タスクの作成と実行**を参照してください。
5. ご使用のデバイスの資産と設定に関する詳細なレポートを作成します。**第6章: レポートの作成と実行**を参照してください。

2 デバイスの準備

NaViSet Administratorは、ネットワークに接続された以下の種類のデバイスに対応しています。

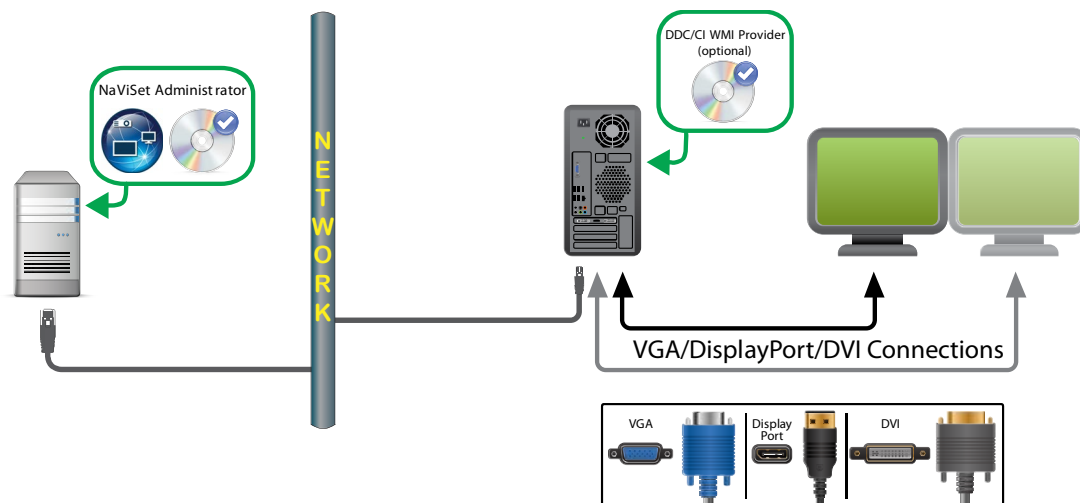
- Windowsコンピュータとそれに接続されているディスプレイ (Windows版からのみアクセス可能)
- SharpまたはNECパブリックディスプレイ
- SharpまたはNECプロジェクター
- PJLinkデバイス

NaViSet Administratorを使用する前に、ご使用のネットワーク上のSharpまたはNECディスプレイデバイス、PJLinkデバイス、およびWindowsコンピュータの環境設定を行う必要があります。デバイスの接続方法によって、以下のチェックが必要なことがあります。

- ディスプレイデバイスが、適切な種類のケーブルで正しく接続されているか
- 必要なりモートソフトウェアコンポーネントがWindowsコンピュータにインストールされ、正しく設定されているか
- 外部との通信設定がパブリックディスプレイおよびプロジェクターで適切に行われているか

NaViSet Administratorは、SharpまたはNECデバイスを含む全種類のネットワーク構成で動作するように設計されています。デスクトップディスプレイ、パブリックディスプレイ、プロジェクターを含む基本構成図を10ページから12ページに示します。

2.1 SharpまたはNECデスクトップディスプレイ (Windows版のみ)



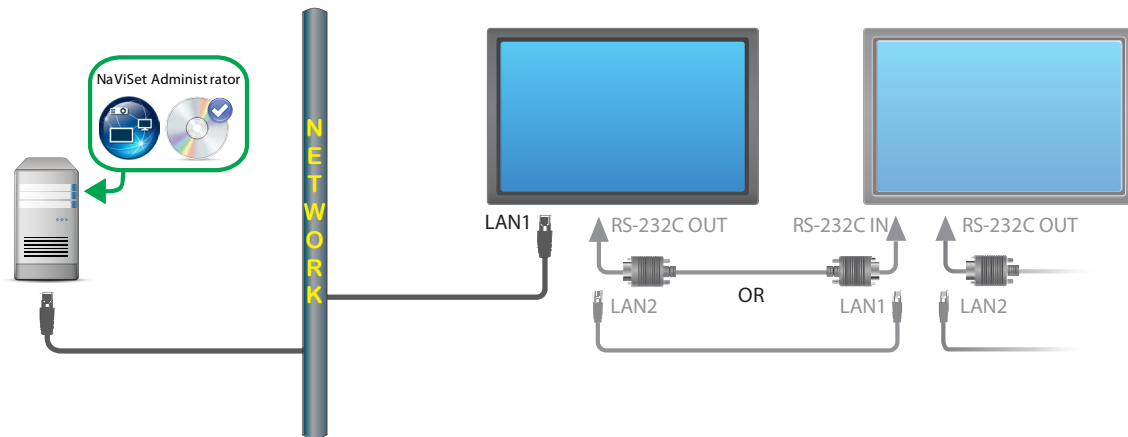
主なポイント:

- SharpまたはNECデスクトップディスプレイのホストとなるWindowsコンピュータにDDC/CI WMI Providerソフトウェアをインストールします。DDC/CI WMI Providerにより、コンピュータに接続されるディスプレイとの双方向通信が可能になります。
- コンピュータのグラフィックカードには、DDC/CI対応のものを使用します。
- ビデオ接続をデータ通信に使用します。したがって、ディスプレイ側でネットワーク接続の設定を行う必要はありません。



ユーザーズガイドの第4章「デバイスの構成: Windowsコンピュータに接続されているデスクトップディスプレイ」を参照してください。

2.2 SharpまたはNECパブリックディスプレイ



主なポイント:

- モデルによっては、RS232またはLANを介してディスプレイを追加して、LAN接続されたディスプレイからデ이지チェーン接続することができます。
- RS232ケーブルには、クロス/NULLモデムタイプを使用する必要があります。
- 最初のディスプレイの**LAN設定**は、有効な**IP設定**を行って適切に構成する必要があります。
- RS232デ이지チェーン接続を使用するディスプレイの場合、最初のディスプレイの**外部コントロール設定**は**LAN**にし、デ이지チェーン接続で追加したディスプレイは**RS232**に設定する必要があります。
- RS232デ이지チェーン接続を使用するディスプレイでは、**モニターID**を一意的連続番号(1、2、3...)にする必要があります。

注意:

LAN 設定、外部コントロール設定、モニターID の変更は、各ディスプレイのオンスクリーンメニューで行います。詳細については、ご使用のディスプレイの取扱説明書を参照してください。



ユーザーズガイドの第4章「デバイスの構成: LANに直接接続されているSharpまたはNECパブリックディスプレイ」および「LANに直接接続されているLANハブ内蔵のSharpまたはNECパブリックディスプレイ」を参照してください。

パブリックディスプレイのその他の構成方法

NaViSet Administratorは、RS232経由でWindowsコンピュータに接続されているSharpまたはNECパブリックディスプレイとも通信することができます。通信するには、LAN to RS232 Bridgeソフトウェアをコンピュータにインストールします。これにより、NaViSet AdministratorはコンピュータのIPアドレスを使用してディスプレイと通信できるようになります。

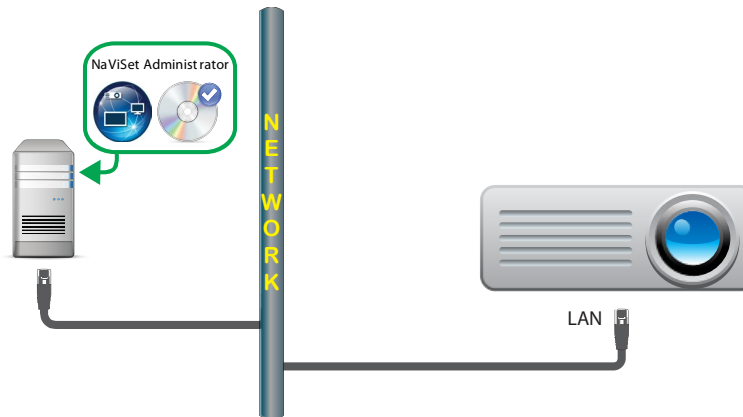
LAN to RS232C Bridgeを使用する以下の構成については、ユーザーズガイドの第4章で詳述しています。

- LAN to RS232 Bridgeを使用したSharpまたはNECパブリックディスプレイ
- LAN to RS232 Bridgeを使用した、LANハブ内蔵のSharpまたはNECパブリックディスプレイ
- SBCおよび2つのLAN接続を備えたSharpまたはNECパブリックディスプレイ
- SBCと1つのLAN接続を備えたSharpまたはNECパブリックディスプレイ



ユーザーズガイドの付録A「SharpまたはNECパブリックディスプレイの接続方法の比較」を参照してください。

2.3 SharpまたはNECプロジェクター



主なポイント:

- プロジェクターのオンスクリーンディスプレイでネットワーク設定を正しく行う必要があります。
- プロジェクター設定時、通信の種類を明確に**LAN**に設定することが必要な場合があります。



ユーザーズガイドの第4章「デバイスの構成: LANまたはワイヤレスで直接接続するSharpまたはNECプロジェクター」を参照してください。

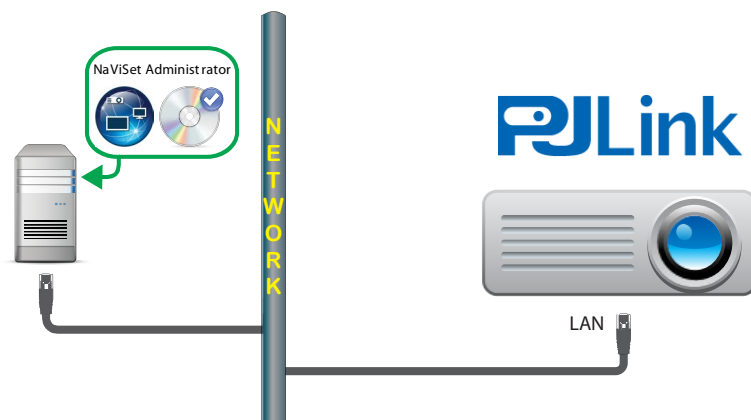
プロジェクターのその他の構成方法

NaViSet Administratorは、RS232経由でWindowsコンピュータに接続されているSharpまたはNECプロジェクターとも通信することができます。通信するには、**LAN to RS232 Bridge**ソフトウェアをコンピュータにインストールします。これにより、NaViSet AdministratorはコンピュータのIPアドレスを使用してプロジェクターと通信できるようになります。



ユーザーズガイドの第4章「デバイスの構成: Windowsコンピュータ経由でLANに接続されているSharpまたはNECプロジェクター」を参照してください。

2.4 PJLinkデバイス



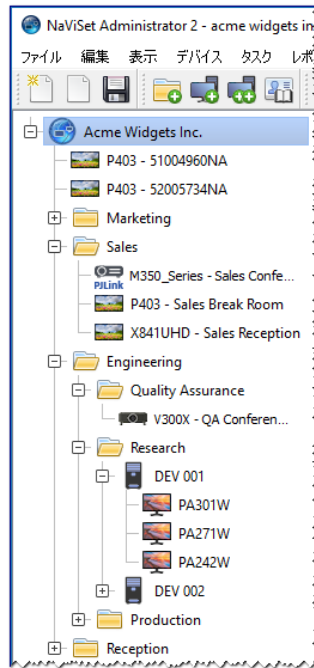
主なポイント:

- デバイスのオンスクリーンディスプレイでネットワーク設定を正しく行う必要があります。
- デバイス設定時、通信の種類を明確に**LAN**に設定することが必要な場合があります。

ネットワーク設定を構成する手順については、PJLink対応デバイスの取扱説明書を参照してください。

3 ネットワークのマッピング

NaViSet Administratorでネットワークを作成するには、Windowsコンピュータ(Windows版からのみアクセス可能)とSharpまたはNECディスプレイデバイスをデバイスツリーに追加し、これらを体系化するためにグループを作成します。



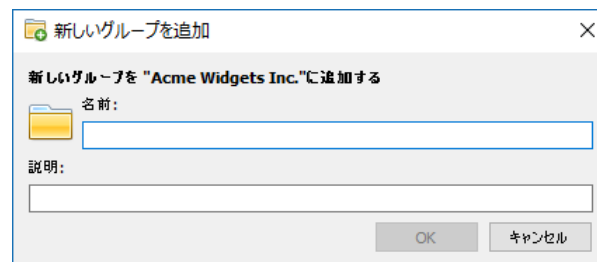
デバイスを部門別にグループ化した例

3.1 グループを作成する

グループは、デバイスツリー内でWindowsコンピュータとSharpまたはNECデバイスを論理的に体系化する方法です。グループは、原則として1つ以上の他のグループ、コンピュータ、またはSharpまたはNECデバイスを含むツリー内の名前付き「フォルダ」です。グループは、数を自由に追加して、配置をドラッグ&ドロップで変更することができます。コンピュータとデバイスをグループ間で移動させることもできます。

デバイスツリー内では、グループを一般的なフォルダアイコン  で表します。

新しいグループを追加する:



1. グループは、必ず親グループに属するようにします。新しいグループの親グループを右クリックし、コンテキストメニューで**グループを追加**を選択するか、親グループを選択して  をクリックします。
2. 名前と説明(オプション)を入力して**OK**をクリックします。

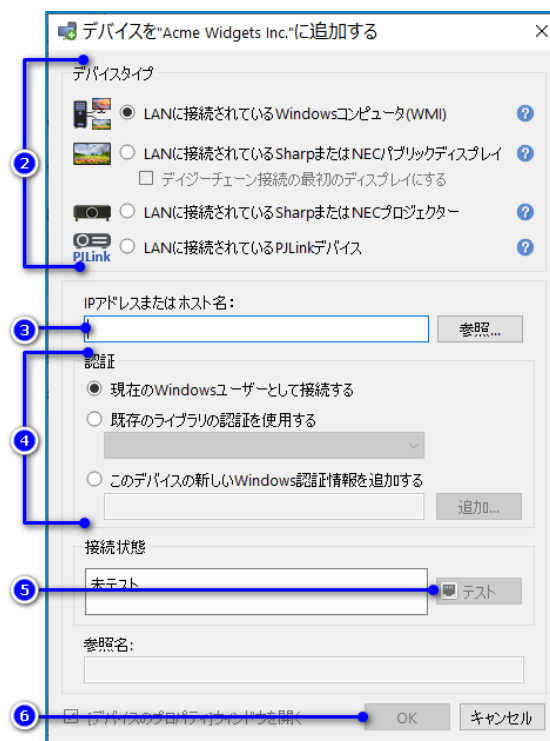


ユーザーズガイドの第2章「ユーザーインターフェースの概要:グループ」を参照してください。

3.2 1つのデバイスを追加する

1つのデバイスを追加ダイアログを使って1つのデバイスを追加します。単一のWindowsコンピュータ、SharpまたはNECパブリックディスプレイ、デ이지チェーン接続されたSharpまたはNECパブリックディスプレイ、SharpまたはNECプロジェクター、PJLinkデバイスをデバイスツリーに追加する**クイックスタート**手順の概要を以下に示します。

1.  をクリックするか、デバイスツリー上でグループを右クリックして、**1つのデバイスを追加**を選択します。



2. 追加するデバイスの種類を選択します。
3. デバイスの**IPアドレス**または**ホスト名**を入力します。
4. 該当する場合は、デバイス別のオプションを設定します。

Windowsコンピュータ - リモートコンピュータへの接続に使用する認証情報を選択します。現在のWindowsユーザーの認証情報を使用する、認証情報ライブラリに保存されている既存の認証情報を使用する、新しい認証情報を追加(および

認証情報ライブラリに保存)する、のいずれかを選択できます。ステップ5へ進みます。(詳細については「認証情報ライブラリ」を参照。)

SharpまたはNECパブリックディスプレイ - モニターIDがわかっていればそれを選択し、わからない場合は自動検出オプションが選択されたままにします。ステップ5へ進みます。

デージーチェーン接続されたSharpまたはNECパブリックディスプレイ - 「デージーチェーン接続の最初のディスプレイにする」を選択します。デージーチェーン内の最小モニターIDを選択し、デージーチェーンの総ディスプレイ数を入力します。ステップ5へ進みます。

SharpまたはNECプロジェクター - ステップ5へ進みます。

PJLinkデバイス - デバイスをパスワードで保護する場合は、デバイスへの接続に使用する認証情報を選択するか、または新しい認証情報を追加(および認証情報ライブラリに保存)します。パスワード保護を使用しない場合は、ステップ5へ進みます。(詳細については「認証情報ライブラリ」を参照。)

5. テストをクリックします。

6. テスト接続に成功したら、**OK**をクリックしてダイアログを閉じます。デバイスがデバイスツリーに追加され、デバイスの基本情報を読み込むためのクエリが実行されます。

テスト接続に失敗した場合は、ステップ3と4でデバイスが正しく追加されているかを確認します。

注意:

- **Windows コンピュータ** - この手順を行う前に、DDC/CI WMI Provider ソフトウェアをコンピュータにインストールする必要があります。コンピュータと接続されているすべてのディスプレイが同時にデバイスツリーに追加されます。
- **デージーチェーン接続された Sharp または NEC パブリックディスプレイ** - デージーチェーン接続のホストは、LAN に接続されている Sharp または NEC ディスプレイで、RS232 または LAN で接続されているパブリックディスプレイが他に 1 台以上あるものです。ネットワークにホストを追加すると、NaViSet Administrator はデージーチェーン内のすべてのディスプレイを制御できるようになります。
- この手順は LAN でデージーチェーン接続されるディスプレイモデルに使用できますが、複数のディスプレイを追加する場合は、**複数のデバイスを追加**ダイアログで IP アドレスを指定する方法の方が通信速度が速くなるので、こちらを強く推奨します。



ユーザーズガイドの第3章「デバイス:複数のデバイスを追加する」を参照してください。

3.3 複数のデバイスを追加する

多数のデバイスを追加する必要がある場合は、通常、複数のデバイスを追加するいずれかの方法で、より簡単で効率的にデバイスを一度に追加します。追加するには、**複数のデバイスを追加**ダイアログを使用します。

注意:

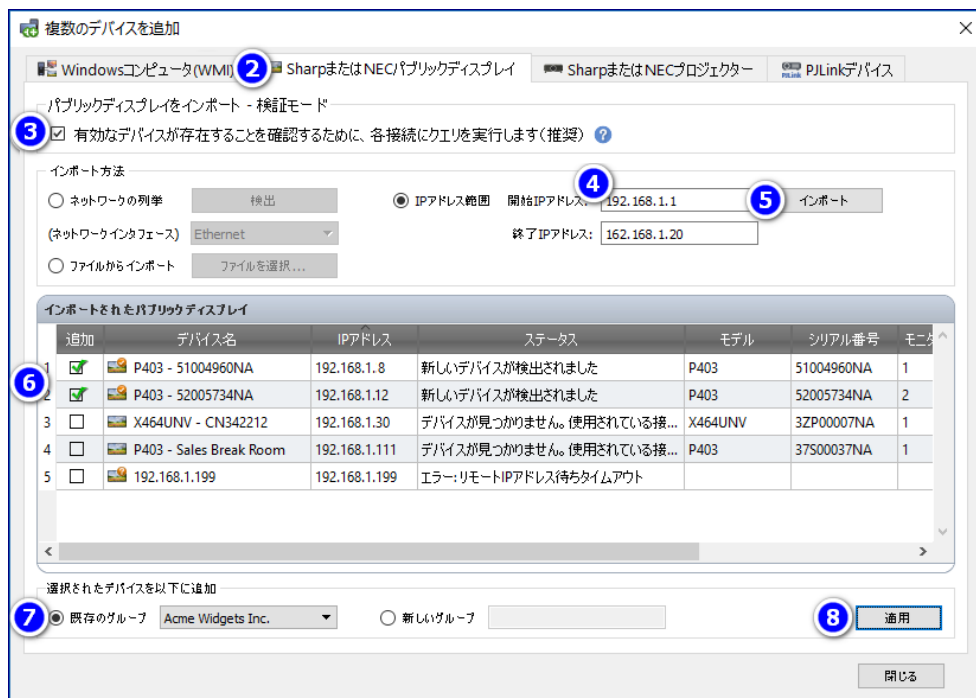
この方法は、RS232 でデジチェーン接続されるパブリックディスプレイグループの追加には使用しないでください。前述の「1 つのデバイスを追加する」の手順を参照してください。

複数のデバイスを追加するための方法は、次のように数種類あります。

- IPアドレス範囲
- ファイルからインポート
 - NaViSet Administratorのデータベースファイル
 - スプレッドシートファイル
 - テキストファイル
- ネットワークの列挙
- WindowsコンピュータのActive Directory (Windows版のみ)

IPアドレス範囲が192.168.1.10～192.168.1.20の複数のパブリックディスプレイを追加するためのクイックスタート手順を以下に示します。

1.  をクリックするか、グループを右クリックして、**複数のデバイスを追加**を選択します。



2. **SharpまたはNECパブリックディスプレイ**タブを選択します。

3. 有効なデバイスが存在することを確認するために、各接続にクエリを実行しますボックスにチェックを入れます。これにより、ディスプレイのインポート中、有効なSharpまたはNECディスプレイかどうかの確認がIPアドレスごとに行われます。
4. **IPアドレス範囲**ボタンをクリックして、追加するデバイスの範囲を対象とする最小および最大のIPアドレスを入力します。
5. **インポート**をクリックして、インポートされたパブリックディスプレイテーブルにデバイスを追加します。
6. 追加後のリストを確認して、特定のデバイスを含めたい場合は**追加**のボックスをチェックし、除外したい場合はチェックを外します。
7. **既存のグループ**を選択して既存のグループにデバイスを追加するか、**新しいグループ**を選択して名前を入力し、新しいグループを作成します。
8. **適用**をクリックし、表示されるメッセージボックスでは**はい**を選択します。デバイスがデバイスツリーに追加され、必要なディスプレイの基本情報を読み込むためのクエリが実行されます。

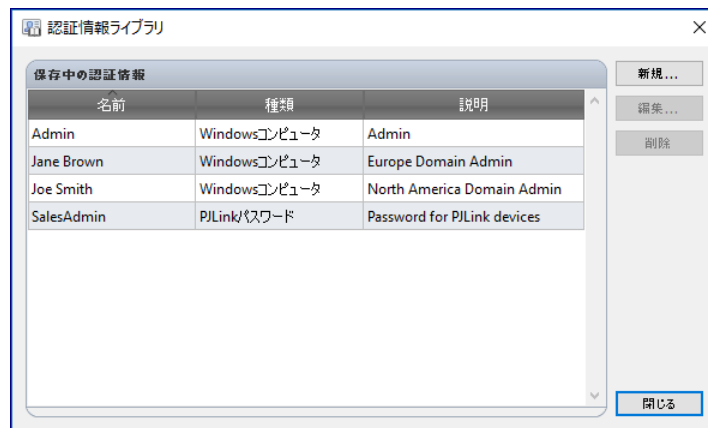


ユーザズガイドの第3章「デバイス:複数のデバイスを追加する」を参照してください。

3.4 認証情報ライブラリ

NaViSet Administratorには**認証情報ライブラリ**機能があり、これにより、認証情報の管理や、複数のコンピュータ(Windows版のみ)やPJLinkデバイスにアクセスするための認証情報を保存・適用することが容易になります。

認証情報ライブラリを開くには、 をクリックするか、**デバイスメニューの認証情報ライブラリ**を選択します。



認証情報ライブラリダイアログ



ユーザズガイドの第6章「認証情報ライブラリ」を参照してください。

4 デバイスのクエリと制御

デバイスに関する情報と現在のコントロール設定は、**デバイスのプロパティウィンドウ**に表示されます。デバイスのプロパティウィンドウで、ご使用のSharpまたはNECデバイスをインタラクティブに制御することも可能です。



例: デバイスのプロパティウィンドウ

あるデバイスの**デバイスのプロパティウィンドウ**を開くには、そのデバイスをデバイスツリー上でダブルクリックするか、または右クリックしてコンテキストメニューから**プロパティ**を選択します。

注意:

デバイスのプロパティウィンドウは、デフォルトではドックウィンドウエリアに表示されています。

デバイスのプロパティウィンドウは、任意の数を同時に開くことができますが、サポートされるのは 1 デバイスにつき 1 つのウィンドウだけです。

4.1 デバイスのクエリを実行する

デバイスのプロパティウィンドウでデバイスのクエリを実行すると、デバイスの最新情報を取得してデータベースに保存することができます。

デバイス情報を更新するには:

1. デバイスツリー上のデバイスをダブルクリックするか、デバイスを右クリックし、コンテキストメニューから**プロパティ**を選択します。新しいデバイスのプロパティウィンドウが開き、データベース内に保存されている最新の設定が表示されます。
2. **情報**タブ内にタイムスタンプが記録されます。必要があれば**基本情報更新**をクリックして、デバイスの基本情報とステータスを含むデータベースを更新します。現在のコントロール設定をすべて含める場合は、**すべて更新**をクリックします。



注意:

デバイスの全情報を読み込むには、デバイスの電源をオンにする必要があります。
情報の経過時間が 24 時間を超える場合は、タイムスタンプが**赤**で表示されます。

4.2 デバイスを制御する

デバイスをインタラクティブに制御するには、**デバイスのプロパティウィンドウ**を使用します。頻繁に使用するコントロールは、**電源**、**ビデオ**、**画面調節**などのカテゴリに分類され、タブで利用できます。**カスタム**タブから、デバイスでサポートされているすべてのコントロールにアクセスすることもできます。

例: 共通コントロール設定を変更する

ディスプレイ上のコントロールキーで調整できないようにOSDをロックする場合の**クイックスタート**手順を以下に示します。

**注意:**

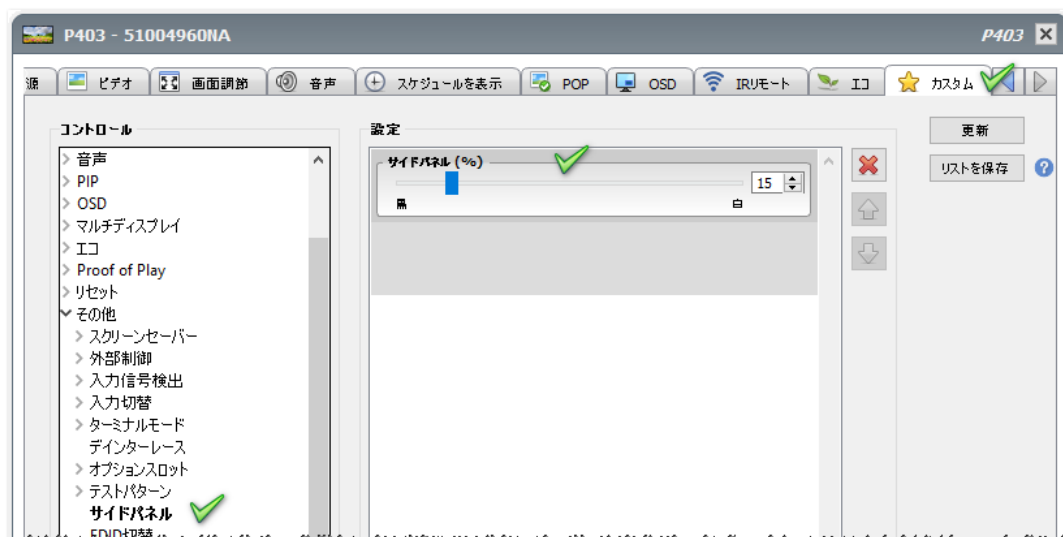
設定やコントロールを調整する前に、デバイスの電源が完全にオンになっていることを確認してください。

1. あるデバイスの**デバイスのプロパティウィンドウ**を開くには、そのデバイスをデバイスツリー上でダブルクリックするか、右クリックしてコンテキストメニューから**プロパティ**を選択します。
2. **OSD**タブを選択します。コントロールが設定リストに追加され、その現在の値がリアルタイムで読み出されます。
3. **キーロック**コントロールの**ロック**ボタンをクリックします。コマンドがデバイスにリアルタイムで送られます。

例: 共通ではないコントロール設定を変更する

デバイスのプロパティウィンドウのタブにすべてのコントロールが含まれているとは限りません。これは、SharpまたはNECディスプレイでサポートされているコントロールが多数にのぼるためです。ただし、ほとんどのコントロールは**カスタム**タブから利用できます。

サイドパネルの端のグレースケールを黒に近づける場合のクイックスタート手順を以下に示します。



 注意:

設定やコントロールを調整する前に、デバイスの電源が完全にオンになっていることを確認してください。

1. 対象のデバイスの**デバイスのプロパティ**ウィンドウを開いて、**カスタム**タブを選択します。
2. **コントロール**リストで**サイドパネル**コントロールをクリックします。コントロールが**設定**リストに追加され、その現在の値がリアルタイムで読み出されます。
3. スライダーをクリックし、希望する値までドラッグして放します。新しい値がリアルタイムでディスプレイに送られます。
4. **オプション:**このデバイスの**カスタム**タブを選択したとき自動的に同じコントロールリストが開くようにするには、**リストを保存**をクリックして現在のコントロールリストを保存します。

5 タスクの作成と実行

タスクとは、1 つ以上のデバイスでクエリやコマンドを実行する操作です。タスクは、特定の時刻に、または要求時に実行するようにスケジュール設定することができます。また、一定の間隔で一定時間実行を継続するようにも設定できます。

NaViSet Administrator の基本タスクには次の 4 種類があります。

- **コマンドタスク**: デバイスの設定を変更したり、操作を実行したりします。例えば、ディスプレイの電源をオンにする、特定のビデオ入力を選択する、TV チューナーで特定のチャンネルを選択する、などが挙げられます。コマンドタスクを使って、複数の設定のプリセット設定を作成した上でディスプレイに送信して、設定を容易にすることもできます。
- **条件付きタスク**: デバイスから 1 つ以上の設定またはパラメータを定期的に読み込み、いずれかの値が指定した範囲を外れるか値が変更した場合に、アラートを発行します。条件付きタスクでは、アラートを発行した場合の対応を指定することもできます。例えば、高温の値が読み込まれたためアラートが生成された場合、温度を下げるために、タスクで自動的に冷却ファンをオンにしたり輝度設定を下げたりすることができます。
- **情報取得タスク**: デバイスから 1 つ以上の設定またはパラメータを定期的に読み込み、その値をリアルタイムで表示します。例えば、ディスプレイの内部温度を監視する場合に使用します。
- **ビルトインタスク**: システムが作成する特別なタスクです。このタスクは、その機能を持つデバイスがデバイスツリーに存在する場合にのみ表示されます。



注意:

ビルトインタスクの一例に、**Proof of Play** があります。これは、音声や映像の内容に影響する変化があった場合に、それを記録するデバイスの機能を利用したものです。ユーザーズガイドの第 7 章「タスク: Proof of Play」を参照してください。

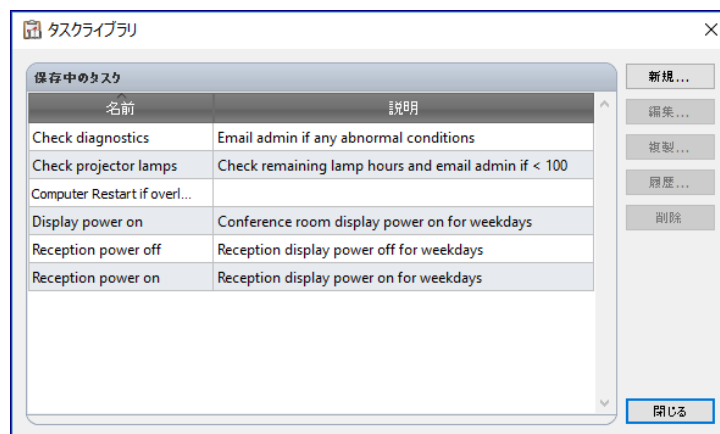
タスクを実行すると、タスクメニューで選択した各デバイスに対して、指定された操作が完了するまで実行しようとします。条件付きタスクと情報取得タスクの場合は、デバイスのポーリングを実行時間を指定して、または制限なしで一定間隔で行うように設定することができます。

タスクの種類を問わず、各操作の結果履歴はデータベース内に保存され、タスクの実行中でも後からでも確認することができます。タスク履歴は、Excel スプレッドシートや区切り文字付きテキストファイルにエクスポートすることも、クリップボードにコピーすることも可能です。

5.1 タスクライブラリ

タスクはすべて、**タスクライブラリ**を用いて管理することができます。タスクライブラリ内で、作成、編集、複製、削除の操作が可能です。タスクの実行履歴は表示とエクスポートが可能です。

タスクライブラリを開くには、 をクリックするか、**タスクメニュー**内の**タスクライブラリ**を選択します。



タスクライブラリダイアログ

5.2 タスクマネージャ

タスクマネージャウィンドウは待機中のタスク、動作中のタスク、アラートの3つのセクションに分けられます。



タスクマネージャのドックウィンドウ

待機中のタスク

待機中のタスクテーブルは、データベースに定義されている実行中でないタスクを表示します。新しいタスクを作成すると、タスクはこのテーブルに追加されます。この待機中のタスクテーブルでは、以下のような複数のタスク操作を実行できます。

-  をクリックしてタスクのプロパティダイアログを開き、タスクの表示や編集を行います。

-  をクリックして**タスク履歴ビュー**アウィンドウを開き、以前のタスクの実行結果を表示します。
- **次回実行時刻**セルのチェックボックスをクリックして、実行オプションのスケジュール設定とスケジュール解除を切り替えます。
-  をクリックして、タスクを手動で起動します。

動作中のタスク

動作中のタスクテーブルは、データベースに定義されている実行中のタスクを表示します。タスクを手動または自動で起動すると、タスクが待機中のタスクテーブルから動作中のタスクテーブルに移動します。タスクが完了すると、再び待機中のタスクテーブルに戻ります。動作中のタスクテーブルでは、以下のような複数のタスク操作を実行できます。

-  をクリックして**タスクビュー**アウィンドウを開き、実行中のタスクをリアルタイムで監視します。
-  をクリックしてタスクを停止します。

アラート

アラートテーブルは、条件付きタスクで生成されたすべてのアラートメッセージを表示します。いずれのアラートメッセージも、**クリア**ボタンのクリックでテーブルから削除されるまで、データベースに保存されます。



注意:

現在のセッション中に生成されたアラートは赤い文字で表示されます。また、過去のセッションで生成されたアラートには標準の文字色が使用されます。



ユーザーズガイドの第7章「タスク」を参照してください。

5.3 タスクを作成する

タスクは、**タスクメニュー**にある**タスクビルダーウィザード**で、または**タスクビルダーウィザード**ボタンをクリックして、ウィザードインタフェースの手順に従って作成することができます。このウィザードには、タスクを作成する各手順の説明が入っています。

タスクは、**タスクメニュー**から**新しいタスク**を選択して直接作成するか、**新しいタスク**ボタンをクリックするか、タスクライブラリから**新規**を選んで作成することもできます。



ユーザーズガイドの第7章「タスク:タスクを作成する」を参照してください。

5.3.1 コマンドタスク

コマンドタスクは、ご使用のSharpまたはNECデバイスの設定を変更する際に使用します。コマンドタスクを作成するためのクイックスタート手順を以下に示します。

1.  をクリックするか、または**タスクメニューから新しいタスク**を選択します。



2. **設定**タブ内で、タスクの名前を入力します。説明の入力は任意です。タスクの種類として**コマンド**が選択されていることを確認してください。
3. **デバイス**タブをクリックして、このタスクを実行するすべてのデバイスの横にあるボックスをチェックします。選択したディスプレイが内部スケジュール機能やIRリモート機能に対応している場合、これらの機能を制御するための追加のタブがダイアログに表示されます。
4. **コマンド**タブをクリックして、送信するコマンドごとに以下を実行します。
 - ツリーリストで目的のコントロールを探してクリックします。コントロールが**コマンド**リストに追加されます。
 - コントロールの値を設定します。
5. **オプション**:スケジュールをデバイス内に設定するには、**ディスプレイスケジュール**タブをクリックします。
6. **オプション**:このタスクで1つ以上のIRリモートコマンドを送信するには、**IRリモート**タブをクリックします。
7. **オプション**:タスク完了のステータスやタスクの実行中に発生した警告に関するEメール通知を受け取るには、**通知**タブをクリックします。
8. **オプション**:タスクを定期的に行うようにスケジュール設定するには、**スケジュール**タブをクリックします。
9. **オプション**:タスクのすべての設定を確認するには、**サマリ**タブをクリックし、確認後**OK**をクリックします。

タスクが作成されると、**タスクマネージャの待機中のタスク**テーブルに表示されます。



ユーザズガイドの第7章「タスク:新しいコマンドタスクを作成する」を参照してください。

5.3.2 条件付きタスク

条件付きタスクは、デバイスの設定やパラメータを定期的に確認し、いずれかの値が指定した範囲を外れるか値が変化した場合にアラートを発行するために使用します。条件付きタスクを作成するためのクイックスタート手順を以下に示します。

1.  をクリックするか、**タスクメニュー**から**新しいタスク**を選択します。



2. 設定タブ内で、タスクの名前を入力します。説明の入力は任意です。
 3. タスクの種類として**条件付き**を選択し、デバイスのクエリを行う頻度を選択します。
 4. デバイスタブをクリックして、このタスクを実行するすべてのデバイスの横にあるボックスをチェックします。
 5. 状態タブをクリックし、確認したい設定ごとに以下を実行します。
 - ツリーリストで目的の設定を探してクリックします。コントロールが**条件**リストに追加されます。
 - コントロールを調整して、希望する条件式を作成します。
 6. オプション: アラート状態の結果により、デバイスにコマンドを送信したい場合、**動作**タブをクリックします。
 7. オプション: アラート状態についての E メール通知や、または完了時や、実行中に警告などが発生した際に E メール通知がほしい場合は、**通知**タブをクリックします。
 8. オプション: 定期的にタスクが実行されるようにスケジュール設定したい場合は、**スケジュール**タブをクリックします。
 9. オプション: タスクのすべての設定を確認する場合は**サマリ**タブをクリックし、確認してから **OK** をクリックします。
- タスクが作成されると、**タスクマネージャの待機中のタスク**テーブルに追加されます。



ユーザズガイドの第7章、「タスク: 条件付きタスクを作成する」を参照してください。

5.3.3 情報取得タスク

情報取得タスクは、デバイスから1つ以上の設定またはパラメータを定期的に取り込み、その値をリアルタイムで表示するために使用します。情報取得タスクを作成するための**クイックスタート**手順を以下に示します。

1.  をクリックするか、**タスクメニュー**から**新しいタスク**を選択します。



2. **設定**タブ内で、**タスクの名前**を入力します。説明の入力は任意です。
3. タスクの種類として**情報取得**を選択し、デバイスのクエリを行う頻度を選択します。
4. **デバイス**タブをクリックして、このタスクを実行するすべてのデバイスの横にあるボックスをチェックします。
5. **クエリアイテム**タブをクリックし、ツリーリスト内で確認したい設定ごとにアイテムを探してクリックします。アイテムが**クエリアイテム**リストに追加されます。
6. **オプション**:タスク完了のステータスやタスクの実行中に発生した警告に関するEメール通知を受け取るには、**通知**タブをクリックします。
7. **オプション**:タスクを定期的に行うようにスケジュール設定するには、**スケジュール**タブをクリックします。
8. **オプション**:タスクのすべての設定を確認するには、**サマリ**タブをクリックし、確認後**OK**をクリックします。

タスクが作成されると、**タスクマネージャの待機中のタスク**テーブルに追加されます。

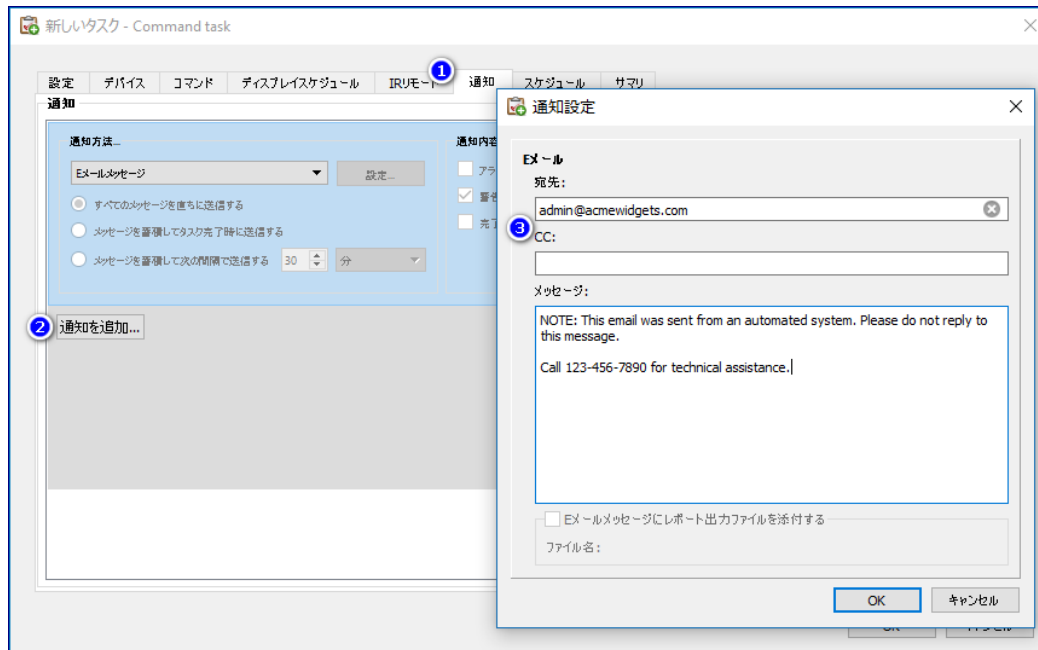


ユーザズガイドの第7章「タスク: 情報取得タスクを作成する」を参照してください。

5.3.4 Eメール通知

Eメール通知は、アプリケーションが1人以上の人にEメールでタスクのステータスを通知できるようにするものです。例えば管理者は、数百台規模のデバイスを対象とした非常に長時間のタスクが完了した場合や、操作中に異常状態が検出された場合に、通知を受け取りたいと考えるでしょう。Eメール通知機能は、どの種類のタスクにも追加できます。

新しいタスクの作成時にEメールによるアラート通知を加える場合の**クイックスタート**手順を以下に示します。



1. **通知**タブをクリックし、**通知を追加**をクリックします。
2. **通知の種類**コンボボックス内をクリックし、**Eメールメッセージ**を選択します。
3. **通知設定**ダイアログで、受信者のEメールアドレスを入力します。すべてのEメールメッセージの末尾に追加する**メッセージ**を入力することもできます。
4. **OK**をクリックして通知設定ダイアログを閉じます。
5. **アラート状態**チェックボックスをチェックします。



ユーザーズガイドの第7章「タスク: 通知タブ」を参照してください。

5.3.5 タスクのスケジュール

スケジュールタブは、タスクの実行方法とタイミングを設定するために使用します。タスクは**要求時**(手動で起動)に実行するように設定したり、一定間隔で実行するように**スケジュール**設定することができます。一時的タスクは手動で起動する必要があり、NaViSet Administratorが現在開いているセッションに限定されます。スケジュール設定はどの種類のタスクも対応しています。

隔週月曜日の午前9:00にタスクが実行されるようにスケジュールする場合の**クイックスタート**手順を以下に示します。



1. スケジュールタブをクリックし、実行オプションのスケジュールを選択します。
2. 実行スケジュールコントロールを上記のように調整します。



ユーザーズガイドの第7章「タスク:タスクスケジュールタブ」を参照してください。

5.4 タスクを実行する

タスクを作成したら、目的の操作を行うためにはタスクを**実行**する必要があります。

タスクは**要求時**に実行することも、自動的に実行するように**スケジュール**設定することもできます。

タスクを**要求時**に実行するには:

1. **タスクマネージャの待機中のタスクテーブル**内でタスクの  ボタンをクリックします。
2. **オプション:タスクビューアウィンドウ**を開いてタスクをリアルタイムで監視するには、**動作中のタスクテーブル**内で  をクリックします。
3. **オプション:タスクを停止**するには、**動作中のタスクテーブル**内で  をクリックします。

5.5 タスク履歴

デフォルトでは、タスク完了時にすべてのタスク結果がデータベースに保存されます。このタスク結果は、その後**タスク履歴ビューア**を使用して、表示、エクスポート、または削除することができます。

タスク履歴ビューアを開くには、**タスクマネージャの待機中のタスクテーブル**内で  をクリックします。



タスク履歴ビューアのドックウィンドウ

タスク履歴ビューアでは、以下のような複数の操作を実行できます。

- 次の終了時刻のタスク履歴を表示ドロップダウンリストで完了日時を選択して、タスク結果の特定の情報を選択します。
- 削除ボタンをクリックして、選択したタスク結果情報をデータベースから完全に削除します。
- エクスポートボタンをクリックして、選択したタスク結果情報をスプレッドシートまたはテキストファイルに出力します。
- タスクデータテーブル内で特定の種類のデバイスを選択して、それ以外のすべてのデバイスを除外します。
- カラムソートを有効にするをチェックして任意のカラムをクリックし、テーブルをカラムでソートします。



ユーザズガイドの第7章「タスク:タスク履歴」を参照してください。

6 レポートの作成と実行

レポートは、1台以上のデバイスから選択した設定値や情報を収集して、結果のレポートを作成する操作です。

これらの操作はリアルタイムで実行する（操作が実行される際にデバイスのクエリが行われる）ことも、各デバイスの現在のデータベースに保存されている情報を用いて実行することもできます。データベース内のデータが指定した期間よりも古い場合にのみデバイスのクエリを行う、混合クエリを指定することもできます。リアルタイムクエリはデータベースのクエリよりも速度がずっと遅いため、このオプションはデバイス上の不要なリアルタイムクエリを減らす上で有効です。

レポートの結果はデータベースに保存することができます。また、Excelスプレッドシートや区切り文字付きテキストファイルに出力することもできます。データベースに保存されると、レポート履歴ビューアを用いていつでもレポート結果を表示できます。レポート結果はレポート作成のたびに保存され、保存されたレポートを個別に選択できるので、長期にわたるレポート履歴を表示することができます。レポートのEメール通知が有効で、レポートの保存先を出力ファイルにしている場合、その出力ファイルをレポート通知のEメールメッセージに添付することができます。

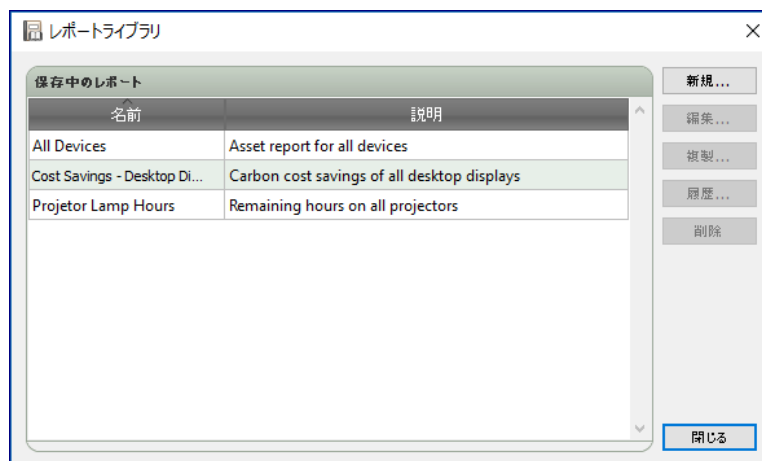
レポートの使用例：

- デバイス名、モデル、シリアル番号、および資産番号により、組織内のコンピュータとディスプレイを追跡管理することができます。
- ディスプレイから読み出すことができるディスプレイの累積作動時間、CO2削減量、またその他のパラメータやサポートされている設定を追跡管理することができます。

6.1 レポートライブラリ

レポートはレポートライブラリを用いて管理します。レポートライブラリで作成、編集、複製、削除の操作が可能です。レポートの実行履歴は表示とエクスポートが可能です。

レポートライブラリを開くには、 をクリックするか、レポートメニューのレポートライブラリを選択します。



レポートライブラリダイアログ

6.2 レポートマネージャ

レポートマネージャウィンドウは、**動作中のレポート**と**待機中のレポート**の2つのセクションに分かれています。



レポートマネージャのドックウィンドウ

動作中のレポートテーブル

動作中のレポートテーブルは、データベースに定義されている実行中のレポートを表示します。レポートを起動すると、レポートは待機中のレポートテーブルから動作中のレポートテーブルに移動します。レポートの動作が完了すると、再び待機中のレポートテーブルに戻ります。動作中のレポートテーブルでは、以下のような複数の操作を実行できます。

- をクリックしてレポートビューアウィンドウを開き、実行中のレポートをリアルタイムで監視します。
- をクリックしてレポートを停止します。

待機中のレポートテーブル

待機中のレポートテーブルは、データベースに定義されている実行中でないレポートを表示します。新しいレポートを作成すると、このテーブルに追加されます。待機中のレポートテーブルでは、以下のような複数の操作を実行できます。

- をクリックしてレポートのプロパティダイアログを開き、レポートの表示や編集を行います。
- をクリックしてレポート履歴ビューアウィンドウを開き、過去の実行レポート結果を表示します。
- をクリックしてレポートを実行します。

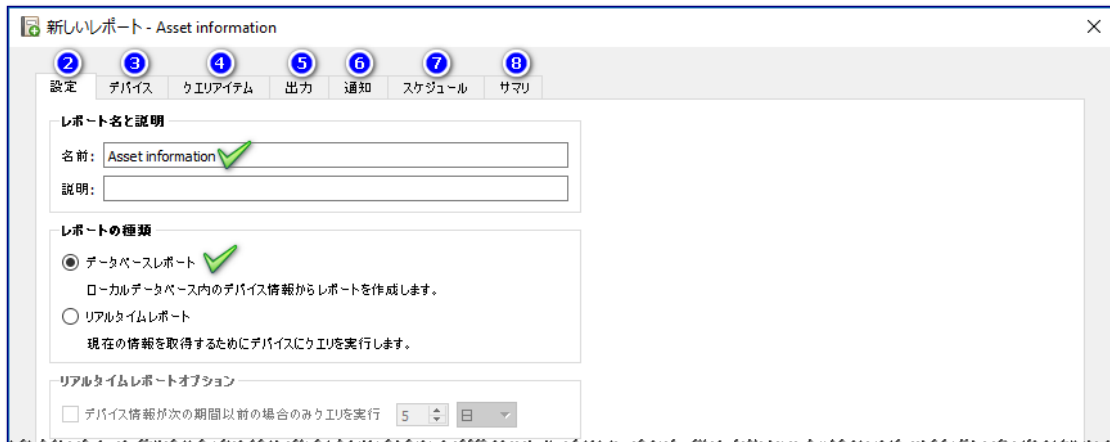


ユーザーズガイドの第8章「レポート」を参照してください。

6.3 レポートを作成する

レポートを作成するためのクイックスタート手順を以下に示します。

1.  をクリックするか、レポートメニューから**新しいレポート**を選択します。



2. 設定タブ内で次のことを行います。
 - レポート名を入力します。説明の入力は任意です。
 - レポートの種類を選択します。**リアルタイムレポート**が実行時に選択されたデバイスをクエリするのに対して、**データベースレポート** は、データベースからの情報のみで作成されます。
 - **デバイス情報が次の期間以前の場合のみクエリを実行...**ボックスをチェックすると、指定した期間内にデバイスのリアルタイムクエリが更新されなかった場合と同様、レポートがデータベースからの情報で作成されます。
3. デバイスタブをクリックし、このレポートに含めたいすべてのデバイスの横にあるボックスをチェックします。

注意: Windows コンピュータに接続されているディスプレイデバイスおよびデジタイザ接続されているディスプレイは、デバイスタブ内には表示されていません。これらのデバイスは、レポートを実行すると自動的に検出されて追加されます。

4. クエリアイテムタブをクリックし、レポートのカラムごとにツリーリスト内でアイテムを探してクリックします。アイテムがクエリアイテムリストに追加されます。

注意: 複数のアイテムはデフォルトで追加されます。背景が赤色のリストアイテムは、デバイスの識別用で必須項目です。

5. 出力タブをクリックし、出力の種類を選択します。
6. オプション: レポート完了のステータスやレポートの実行中に発生した警告に関する E メール通知を受け取るには、**通知タブ**をクリックします。
7. オプション: レポートを定期的に行うようにスケジュール設定するには、**スケジュールタブ**をクリックします。
8. オプション: レポートのすべての設定を確認するには、**サマリタブ**をクリックし、確認後 **OK** をクリックします。

レポートが作成されると、**レポートライブラリ**および**レポートマネージャの待機中のレポート**に追加されます。



ユーザズガイドの第8章「レポート: レポートを作成する」を参照してください。

6.4 レポートを実行する

レポートを作成すると、データベースに保存されるレポートのスクリプトを実質的に作成することになります。その上でレポートのスプレッドシートやテキストファイルを作成するためには、レポートを実行する必要があります。

レポートを実行するには：

1. レポートマネージャの待機中のレポートテーブル内で目的のレポートの  ボタンをクリックします。
2. オプション：レポートをリアルタイムで監視するには、動作中のレポートテーブル内で  をクリックします。
3. オプション：レポートを停止するには、動作中のレポートテーブル内で  をクリックします。

出力ファイルをレポートの作成時点で指定していた場合は、デフォルトのプログラムにより、動作完了時にレポートファイルが自動的に開きます。



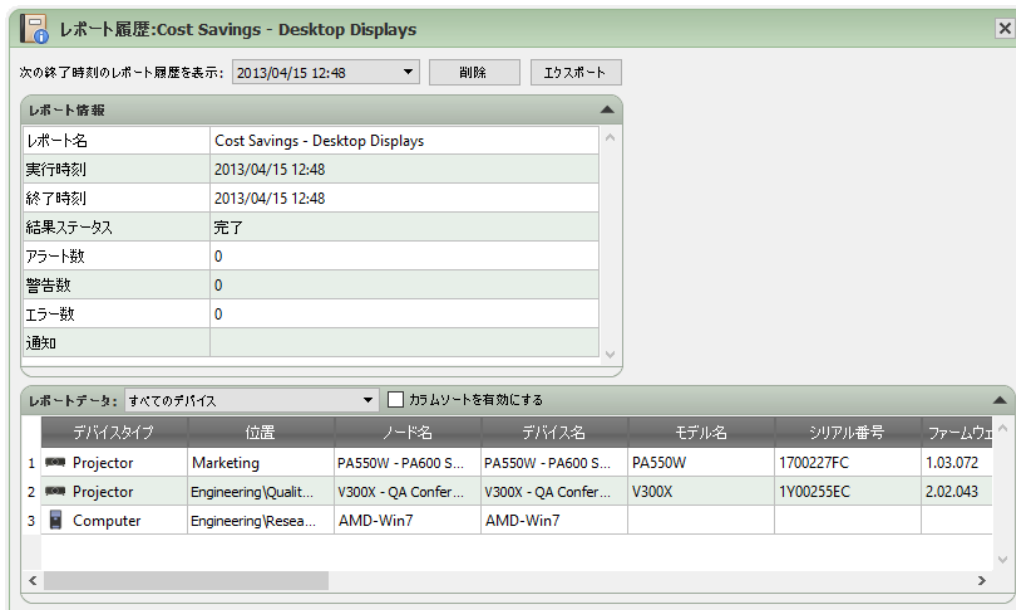
注意：

このオプションをオン／オフするには、設定のエクスポート完了時にファイルを開くオプションを使用します。

6.5 レポート履歴

デフォルトでは、レポートの完了時にすべてのレポート結果がデータベースに保存されます。このレポート結果は、その後レポート履歴ビューアを使用して、表示、エクスポート、または削除することができます。

レポート履歴ビューアを開くには、レポートマネージャの待機中のレポートテーブル内で  をクリックします。



レポート履歴ビューアのドックウィンドウ

レポート履歴ビューアでは、以下のような複数の操作を実行できます。

- 次の終了時刻のレポート履歴を表示ドロップダウンリストで完了日時を選択し、レポートの特定の情報を選択します。
- 削除ボタンをクリックして、選択したレポート情報をデータベースから完全に削除します。
- エクスポートボタンをクリックして、選択したレポート情報をスプレッドシートまたはテキストファイルに出力します。
- レポートデータテーブル内で特定の種類のデバイスを選択して、それ以外のすべてのデバイスを除外します。
- カラムソートを有効にするをチェックして任意のカラムをクリックし、テーブルをカラムでソートします。



ユーザーズガイドの第8章「レポート:レポート履歴」を参照してください。

商標と著作権

Microsoft、Windows、およびExcelは米国および/またはその他の国におけるMicrosoft Corporationの登録商標または商標です。

AdobeおよびAdobe Readerは米国および/またはその他の国におけるAdobe Systems Incorporatedの登録商標または商標です。

Apple、Macintosh、Numbers、Mac、macOS、およびMacのロゴは米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。

本製品は、OpenSSLツールキットで使用するためにOpenSSL Projectにより開発されたソフトウェアを搭載しています (<http://www.openssl.org/>)。Copyright © 1998-2025 The OpenSSL Project. All rights reserved.

その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

PJLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録又は出願商標です。

Copyright © 2025 Sharp NEC Display Solutions, Ltd.

本書に記載されている内容は情報提供のみを目的としたもので、予告なく変更されることがあり、Sharp NEC Display Solutionsによる確約を意味するものではありません。当社は、本書中に誤りや不正確さに伴う責任または法的義務をいっさい負わないものとします。

All rights reserved. お客様の所有権は、下記の著作権法によって課される制限および制約に準じるものとします。

合衆国法律集第17編合衆国著作権法で認められる例外を除き、本書の複製、複写、または転送（ネットワーク、その他いっさいの手段を介した電子的転送も含め）は法律に違反します。法律的に複製とは、別の言語への翻訳、または別の形式への変換も含みます。

上記は、著作権法の下で課される制約を包括的するものではありません。

米国著作権法で課される制約に関する完全な表明文については、合衆国法律集第17編合衆国著作権法をご覧ください。

改版 250530

NEC

Copyright © 2025 Sharp NEC Display Solutions, Ltd. All rights reserved.

日本: www.sharp-nec-displays.com/jp